

## 「羽月西小学校と八代棒踊り」 伝承活動の取組

1 学校名 伊佐市立羽月西小学校

2 学年・人数 小学3年生～6年生 (計8名)

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

羽月西小学校及び八代公民館(10月)

(2) 発表の日時・場所

羽月西小学校校庭(11月)

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

八代棒踊り(やしろぼうおどり)

(2) 由来

戦前から青年団等を中心に伝承されてきた。一時途絶えたものの、平成元年頃、八代青壮年部が復活させたいと願い復活し、現在も青壮年部を中心に伝承されている。

平成22年度から本校PTAと連携し、校区文化祭でアトラクションとして児童による棒踊りを披露した。これがきっかけとなり伝承活動に取り組むようになった。

(3) 構成等

上げ唄を2人で唄い、三尺棒を持った6人が1組となり、参加人数によって2組・3組・4組となって踊る。棒を打ち合うことで、五穀豊穡の感謝の気持ちを捧げ、棒を打ち合う音で厄を払い、無病息災を祈っていると伝えられる。

上げ唄が7種類あり同じ動きを繰り返す。着物姿で頭は豆絞りで色分けし、白色赤色黄色を縦一列に分け、背に飾り(チロロ)をつけることになっている。

5 保存会や地域との連携の具体

学校の教育活動として伝承活動を位置づけし、練習時間を授業の中で割いている。

4, 5年位前から羽月西コミュニティー協議会の協力をもらって校区の自治会員が交代で指導をしていた。しかし、人員不足の自治会が多くなり、昨年からは八代棒踊り保存会が中心となり、学校・PTA・コミュニティー協議会の方々の協力体制を作ることによって伝承活動を行っている。小・中学校、八代自治会が一丸となり、地域ぐるみで棒踊りを伝承している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら、棒踊りを継続して伝承していける体制を整えた。

また、地域の郷土芸能は地域で守り育てていくという自覚を促すねらいから、八代棒踊り保存会が中心となって伝承していく体制を維持している。

今後、校区の小・中学生全員が参加できるように工夫するとともに、中学生が小学生に指導できる体制を整える必要がある。

## 7 取組の様子



練習の様子



発表の様子（平成22年度校区文化祭）



発表の様子（平成23年度校区文化祭）



発表の様子（新曾木大橋開通式典）

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

子どもたちは、小学4年生から棒踊りが踊れることを待ち遠しく思っていたらしく、練習もまじめに取り組んでいる。

夜間の練習になるため保護者の送迎が必要となるが、棒踊りに対する保護者の理解もあり大変協力的である。ふるさとの郷土芸能である棒踊りをとおして、生まれ育っている地域への誇りや愛着を子どもたちに育みたいという保護者の願いがあるようである。

羽月西コミュニティー協議会が中心になり、校区を挙げて棒踊りを伝承していこうとする機運が高まってきている。

夜間の練習にもかかわらず、担当教諭は毎回参加し、自主的に指導の協力を行っている。踊り子が欠けるときは、教諭が踊りを覚え、子どもたちと一緒に踊っている。

踊りの発表機会を増やすため、市内の記念事業に参加している。